

平成25年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	元風ネット
議員名	金濱 元一 ・ 南川 達彦
調査実施年月日	平成25年1月29日
調査先 自治体名等	鹿児島県 霧島市役所
調査項目	まちづくり支援について
調査目的	自治会へのまちづくり支援
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口: 553,914 人(H24.4.1現在) 行政面積: 186.31 km²</p> <p>2 視察内容 自治会へのまちづくり支援 霧島市の支援で特徴的なのは、行政職員が広域自治会へサポーターとして入り、行政との橋渡しを行いながら、各地区の特徴を生かした地域づくり計画(計画期間は10年)を作るという活動を行っている。</p> <p>1年目 地域の調査 2年目 実施計画づくり 行政へ提案 予算化への検討 3年目～ 事業を実施していく 5年後に事業の実施状況を再検討し、計画の修正を行うというきめ細やかさもあった。</p> <p>また、計画実施にあたり、自治会で行う事業についてソフト事業は30万円(3年間)、ハードの整備事業は100万円までの補助もあり、計画を進めるうえでの財政支援も行っている。</p> <p>課題として、若年世代の自治会への関わりが少なくなっており、計画づくり に若い意見・次世代の意見の反映が難しいということがあった。</p>
感想(まとめ) 本市へ生かせること 等	<p>室蘭市も協働のまちづくりとして、公園や複合公共施設の計画に市民が入って意見を述べるという事は行っているが、霧島市のように地域のまちづくり計画という市民が望む未来のビジョンを協働で作るところまで行っていない。室蘭は、沢文化といわれるように、各地区の色が違い、今回視察した霧島市のように各地区でまちづくりの検討を行っていくということは、理にかなっている。</p> <p>また、市民活動の根本である自治会活動には霧島市のように行政職員の関わりが必要であり、行政の関わりがない中での地域の活性化は難しい。</p> <p>霧島市の行政職員の自治会への関わり方と参考にして、本市でも地域のまちづくりへの行政職員の関わり方について、大いに検討していきたい。</p>